

シンポジウム | 特別講演

学術用語シンポジウム

高齢者の定義 75歳は妥当か？ -老年歯科医学からの検討-

座長: 眞木 吉信(東京歯科大学衛生学講座)

Fri. Jun 22, 2018 3:40 PM - 5:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

1978年 東京歯科大学卒業

1987年 スウェーデン, ルンド大学歯学部口腔微生物学講座留学 (スウェーデン政府給費留学生, 1年5ヵ月)

1990年 東京歯科大学口腔衛生学講座助教授

2002年 東京歯科大学衛生学講座教授

(財)ライオン歯科衛生研究所附属東京診療所院長

2010年 東京歯科大学社会歯科学講座教授

2016年 東京歯科大学衛生学講座教授

【抄録】

日本老年学会は2017年1月5日に、現在は65歳以上と定義されている「高齢者」を75歳以上に見直すよう求める提言を発表した。医療の進展や生活環境の改善により、10年前に比べて身体のはたらきや知的能力が5～10歳は若返っていると判断したため、確かに歯科医学の観点からも、高齢者の歯数が増加するなど、歯科医療の進歩の形跡が認められる。このシンポジウムでは、高齢者に関する定義検討ワーキンググループのメンバーでありかつ歯科医師でもある那須郁夫日本大学客員教授より、歯科独自の観点から考えた「高齢者の適正年齢」を考察していただくとともに、他の職種からみたときに、本当にこの定義は妥当なのかを、同様にメンバーであった社会科学分野の古谷野 亘聖学院大学教授から、さらには、大学に赴任される前は厚生労働省にいらした小坂 健東北大学教授をシンポジストにお迎えして、それぞれの立場から考える「高齢者の定義」の議論を深めてみたい。

[S3-1]地域共生社会に「高齢者」というレッテルは要らない

○小坂 健¹ (1. 東北大学大学院歯学研究科)

【略歴】

1990年 東北大学医学部卒業

1995年 東京大学大学院医学系研究科国際保健学修了

1997年 国立感染症研究所 感染症情報センター研究員

2001年 ハーバード大学公衆衛生大学院・客員研究員(タケミフェロー)

2003年 国立感染症研究所 感染症情報センター主任研究官

2004年 厚生労働省老健局老人保健課課長補佐(併任) 同局認知症対策専門官(併任) 同省がん対策推進本部

2005年 東北大学大学院歯学研究科教授

2012年 (併任) 同大学災害科学国際研究所災害医学研究部門教授

2016年 (併任) 同大学スマートエイジング学際重点研究センター部門長

日本疫学会評議員

社会医学系専門医・指導医

かつての高齢者に比べて、身体的にも精神心理的にも若返ってきていると指摘されているが、独居高齢者、認知症者の増加もあり、社会保障制度の改革は喫緊の課題である。地域包括ケアは「地域共生社会」の実現のためのツールとして再定義され、子供から高齢者までのすべてのライフステージで、身体の疾病、認知症、障がい等を含んだ取り組みに進化した。従来のサービス受給者と提供者が「ごちゃまぜ」になりながら、ソーシャルキャピタルを育みつつ、疾病予防、介護予防のみならず就労支援までを視野に入れた新たな持続可能なコミュニティが実践されてきている。年金制度、市町村国保、障がい者総合支援法と介護保険制度の統合でも年齢がハードルになってきた。生活困窮者自立支援制度の導入により、地域では年齢の垣根を取り払った動きが進んでいる。地域

や個人の状態をベースとしたパーソンセンタードケアのための制度作りが望まれる。